



鈴木 社長

当社の売り上げに占める車載比率は約85%。最近はEV(電気自動車)市場が低迷しているが、ゆくゆくはEV化がさらに進む見通しがため、EV向けの開発は緩めていない。

米国のトランプ政権誕生により、世界は変わつていて、日本に対する

関税もどうのようになる

か分からぬ。どの国

も米国向け輸出では苦

らくなると思う。

今後も車載を中心と

した事業戦略を進め

る。EV向けに積極的

に取り組み、EVパワ

ートレイン系やセーフ

ティ系などの開発を

推進する。インダスト

リアル市場向けは製品



車載を中心とした事業戦略を推進

イリソノ電子工業 鈴木仁社長

も増やしていく。従来、秋田工場開設でB半導体製造装置分野へCP(事業継続計画)の展開も推進する。

24年秋に新工場の秋田工場(秋田県横手市)落成して、4月から新ERPが稼働し、ようやく立ち着いてきた。今後(こんぽう)材プラスチックの生分解性プラスチックへの置き換えなども進める。

労することになると想う。産機市場は2025年も厳しさが続くとの連携強化に努めている。産機市場の本格的な回復は、中国の景気が戻ってこないと難しい。米国の景気は、25年は24年よりも

クターがインダストリアル分野で採用される場でも同様の製品を作ることもあるため、今後

ことができるものが特

の最適化を図る。

環境対応ではCO₂排出量削減のため、国

内ではグリーン電力への切り替えや工場への太陽光発電設置などを進めている。まずは消費電力を削減するため、工場のコンプレッサーの省エネタイプへの対応が完成する。

4月の本格量産開始を予定している。プロ

セス、成型、組み立て、めつきを含むコネ

いくと考えている。

今後も生産性向上に

力を注ぐ。

地産地消を

強化し、地産地消率を

上げるために注力する。

たため、工場ごと

の最適化を図る。

環境対応ではCO₂

排出量削減のため、国

内ではグリーン電力への

切り替えや工場への

太陽光発電設置などを

進めている。まずは消

費電力を削減するた

め、工場のコンプレッ

サーの省エネタイプへ

の切り替えなどを行つ

ている。樹脂のバイオ

マス化の研究や、梱包

(こんぽう)材プラス

チックの生分解性プラスチックへの置き換えなども進める。

25年度以降、徐々に収益に貢献して